

文部省選定

十六ミリカラー 三十三分 一七〇、〇〇〇円



「有難御江戸景清」より、景清「飛び六方」で引込みの前の「見得」

■上演題目

天衣粉上野初花  
義経千本桜  
——大物浦——  
菅原伝授手習鑑  
——寺小屋——  
浮世柄比翼稲妻  
奥州安達原  
積恋雪関扉

■主な出演

市川 海老蔵  
市川 男女蔵  
市川羽左衛門  
尾上 菊五郎  
尾上 松 緑  
尾上 辰之助  
尾上 梅 幸  
河原崎権十郎  
中村 勘三郎  
(アイウエオ順)

# 歌舞伎の伝魅力

## 演技

■企画・監修

国立劇場

■製作

桜映画社

■資料提供

早稲田演劇博物館

■製作スタッフ

製作 村山英治

脚本 利光久輝

演出 北条明直

撮影 木塚誠一

照明 村山和雄  
編集 本橋俊男  
梅崎梅子





「積恋雪関扉」より、上は関守関兵衛と傾城墨染。右は「引き抜き」後の大伴黒主と桜の精。

## ■ 解説

私たちが普通、現代劇やテレビ、ドラマや映画といったものを観るのに、ことさら見方といったものは必要ありません。けれども歌舞伎は、私たちが生み出した演劇ではなく、私たちの世界とは違った江戸時代の人たちによって創り出された演劇です。しかも独特の様式をもって完成されているだけに、現代の眼から見ると、少なからず時代的な違和感があって、それが若い人たちなどの観賞のさまたげとなっています。こうした障害をとり除くためには、歌舞伎に対する、観賞の手引といったものが必要でしょう。単なる気分的な観賞ではなく、歌舞伎のもつ本質にもとづいての見方が行なわれるならば、この演劇のもつ豊富な内容は、現代の若い人たちにも古典のもつ魅力を、充分堪能させるものをもってののです。

この映画は、主として歌舞伎の演技を中心とし、歌舞伎のもつ特色を、数多くの上演舞台をくりひろげる中で述べていくことにより、歌舞伎の観賞に必要な基礎的知識を伝え、まだ歌舞伎に接したことのない人にも、歌舞伎への理解と親しみを与えようとするところに、ねらいをおいています。

歌舞伎は伝統の中で、代々の衆知と工夫が積み重ねられ、そこに特殊の表現形式を生み出しています。その主要なものを分解し解説するとともに、歌舞伎のもつ絵画的あるいは音楽的美しさが、いかにドラマの中に溶解され、そこに他の演劇にみられない情感の世界を形成しているかを、わかりやすく具体的に見せるものです。

歌舞伎は観客の感性にうったえ、人間の喜怒哀楽の情を深く味わせる演劇です。その点、論理的に構築され、理性に語りかけてくる西洋の近代演劇とは違った観賞の仕方が要求されるでしょう。

## ■ 内容

歌舞伎は、江戸時代の人たちが、こよなく愛し育ててきた、独特の様式をもつすぐれた演劇です。

ここ吉原の仲の町。満開の桜、嫋々として春は舞台にみなぎっています。歌舞伎十八番「助六縁江戸桜」。粋な揚巻の登場。三浦屋の格子先には女たちが、あでやかな衣裳で並び、そこへ、めっぽう威勢よく、恰好のいい主人公助六が登場します。江戸っ子をそのまま活写したような助六の演技は、当時の江戸の市民の感情を代弁するものだったでしょう。

「有難御江戸景清」の開幕前、楽屋では出演の役者の化粧や扮装が行われています。歌舞伎が独特の誇張した演技や様式美を重んずる演劇であることが、その化粧や扮装からもわかります。

歌舞伎の演技の特徴をみてみましょう。歌舞伎は錦絵模様のような美しさをもっています。一つ一つの演技の中には、伝統の中で洗練された美しい姿を、形として伝えているのです。静止の芸としての「見得」、舞踊化された「タテ」の演技、無言でつぎつぎに美しい動作をみせる「だんまり」、歩く芸としての「六方」等、すべてが美しく、効果的に印象づけられるよう工夫されています。

歌舞伎は舞踊の要素を多くとり入れています。「積恋雪関扉」は歌舞伎の舞踊劇として代表的なものです。関所の番人に身をやつた関兵衛は、実は天下をぬすみ取ろうとする大悪人。衣裳が「引き抜き」によって一瞬にかわり、人物の性格を一変させます。傾城墨染も桜の精となり、二人は烈しく争いますが、すべて舞踊化された中で、華やかで美しい絵柄を構成するのです。

リズムカルな動作や様式化された美しさは、舞踊劇のみではなく、歌舞伎演技の多くにみられるところです。

舞台は「奥州安達原」の一場面です。盲目の母親が子供に手を引かれ、親の家の門までたどりつきますが、勘当の身ゆえ、中へ入れてもらえません。その親子の演技をみると、浄瑠璃の語りと三味線の伴奏にのって、その切々とした気持ちが身振りで律動的に表現されるのです。

身振りだけではなく、せりふのいいまわしにも、歌舞伎特有の調子があります。「浮世柄比翼稲妻」では、両花道を用い、互いに七五調の耳に快い美文を受け渡す「わたりせりふ」が、見せ場となっています。さらに演技のリズム化を助けるために「ツケ」という特殊な音響効果が、たくみに取り入れられ、演技を引き立たせています。

「菅原伝授手習鑑」の寺小屋の場面。身替りになったわが子の首実験をする松王丸。歌舞伎には、こうした義理と人情との葛藤をドラマにしたものが少なくありません。義理が人情の流れをせきとめようとするところに、一層人間の情愛が高揚されて、胸をうつのです。

「義経千本桜」の大物浦の場。深手を追った平知盛は、平家滅亡の戦いのすさまじさを精いっぱい身振りで表現します。最後に錠を巻いて海に身をなげる舞台は、悲壮美そのものです。

「天衣紛上野初花」では、御家人くずれの直次郎が、追手の目のがれ、ひそかに愛人三千歳に会うという、情緒あふれる場面が展開されます。浄瑠璃清元の粋にくださった語り、磨きぬかれた伝統の演技は歌舞伎の美しさとその情感の世界を、みごとにドラマ化して見せてくれます。

### 女方(おんながた)

美しい髪飾り、金糸銀糸の衣裳、そしてびーんと張った声音……。何百燭の照明に浮出され多くの観客から美の権化として仰ぎ見られる歌舞伎のヒロインは、永年にわたる役者の工夫と幼時からの厳しい芸修行を経てきた女方によって演じられます。シエークスピア演劇や京劇でも嘗て活躍しましたが、ヒロインとして、独特の美しさ、魅力をみせる歌舞伎の女方演技も、充分御覧下さい。



「浮世柄比翼稲妻」より、花道を行く花魁道中。

### 歌舞伎舞踊

歌舞伎は、一日の演目建ての中で必ず音楽味豊かで、役者の律動美や姿態味が存分に味わえる舞踊劇を一幕もうけております。当時の流行唄を再編した長唄物が叙情的な踊り本位だったのに対し、清元や常盤津、浄瑠璃を地にした舞踊劇は、誠に幻想味濃い、劇的な舞台を繰広げます。この映画では、歌舞伎を代表する舞踊劇「関の扉」の口マン溢れる華麗さをお味わい下さい。



### 隈取り(くまどり)

「荒事(あらごと)は素足の方が強く見える。七つ八つの子供の真似をするがよい」と云われる歌舞伎の荒事演技は、曾我五郎、花川戸の助六、景清などのスーパーマンに扮し、江戸人の夢やロマンに応える美と力の演技です。顔や手足を紅や墨で隈取り(化粧)し、力強い髪型や厚綿姿のその扮装は、そうしたスーパーマンらしい強さ、美しさを誇張する為の素晴らしい化粧と扮装です。じっくり御覧下さい。

### 花道(はなみち)

客席の奥から舞台へかけ、一本の長い通路が設けられている。化粧、扮装をし、華やかな音楽にのって、自分達のすぐ傍らを登・退場する役者に対し、観客の熱い溜息が聞こえてくるような歌舞伎特有の劇場機構です。花道(フラワーロード)という命名も、いかにも魅惑的なこの演出ぶりを伝えていて、この映画でも、そうした演出を駆使して展開する歌舞伎演技の楽しいシーンが幾つか紹介されています。



## ■ すいせんの言葉

早稲田大学教授 郡 司 正 勝

たいへん魅力のある歌舞伎の映画が出来ました。なにせ、歌舞伎という芝居は、様式と色彩の美が群を抜いていますので、カラー映画は、よくその魅力を捕え、その威力を発揮することができます。それに、舞台とはちがって、映画は、ぐっと自分の方へ舞台をいちだんと引きつける力をもっていますので、舞台とはまたちがった大寫しの魅力を発揮します。これで歌舞伎の大きな魅力の一つでもある役者の芸を拡大してみせる力があるわけです。

短い時間で、歌舞伎の種類や技術や性質をすべて紹介してみせるというわけにはいきませんが、歌舞伎の美の拠っているところは、よく捕え得ているといえましょう。

歌舞伎は、江戸時代の大衆が生み育てたユニークな様式を完成した演劇です。音楽劇であり舞踊劇であり、セリフ劇でもあるわけで、様式とリアリティを同時に、同舞台の上でみることができ、それを時代物と世話物といった二重構造で表現します。いわば時代物は史劇であり、世話物は現代劇で、その演出演技様式にもちがいがあるわけですが、さらに、この時代物と世話物は掬交ぜになっており、時代のなかに世話があり、世話のなかに時代があるというように、二つの時間のちがった世界が一つになって、重なりあい、掬交ぜになっているという構造をもつところに大きな特色があります。

また歌舞伎は、役者の芸が極度に鑑賞の対象となる演劇であり、役柄の分化発達が「型」というパターンを生み出し、劇の局面が、類型され、そのバリエーションで組み上げられた演劇として展開しました。役柄の分化は、ユニークな女形の伝統を保持して、これまた大きな歌舞伎の魅力の一つとなっております。

また衣裳・鬘など、その形と色彩とは、江戸美学に支えられて、すぐれた美術品となっており、見物の見ている前で、それぞれ、形も色も変化するという素晴らしい発想をみせます。「引抜き」といったレビューの変化は、照明の貧弱な時代における偉れた発明といわねばなりません。おなじ変化でも「ぶっ返り」は、人物の性格が変るときに用いられ、また、そのときどきに、それぞれの人物の性質によって髪形も化粧も変化します。

また役者のセリフも、詩的に七五調を唱いあげる調子から、語りの調子になったり、日常会話に変わったという変化を、下座音楽の活け殺しの力を借りながら展開することも特色の一つです。

また、見物が、役者の仕料やセリフに、かけ声をかけるのも、歌舞伎の饗宴性をもの語るもので、舞台と見物の交歓がよく果される演劇性をもつものだといえましょう。

こういうことを頭に置いて、この映画をみていただくと、より一層、歌舞伎の魅力をを知ることができるとは思いません。



「浮世柄比翼稲妻」鈴ヶ森の場。白井権八と幡随院長兵衛の“出会い”。

### 歌舞伎と音楽

唄や三味線、そして笛に太鼓、鉦……と、皆さんが一寸耳を傾けると、歌舞伎に多くの音楽が活躍しているのに気付きます。役者がその音楽にのって台詞を述べたり、舞踏的に演技を展開するのも歌舞伎の特徴ですが、さらに、雪・波・風・雷……と、天然現象をも忽然と舞台上に響きわたらせ、観客のイメージを四季・山海・風雨の自然界へと、自由に響き出す効果音楽の動きにも御注目下さい。

### 立廻り(たちまわり)

殺陣(たて)とも書き、白刃が入り乱れ、血汐が飛び交うシーンを想像しがちですが、むしろそうした生々しさ、血なまぐささを嫌い、美しい音楽にのった役者の見得や姿態美をふんだんに盛込んだのが、歌舞伎の立廻りと申せます。どんな殺伐な場面や悲惨な局面をも必ず美しい

情緒でくるんでゆこうとする歌舞伎劇の主張が、よく窺える演出といえます。

製作

株式会社

桜映画社

東京都渋谷区代々木1-57-1 代々木センタービル  
〒151 TEL 03(3320)6311 FAX 03(3320)7666

配給